

<原稿テンプレート>

第 82 回大会 HP (http://jpa2018.com/join_notes.html#templates) からダウンロードすることができます。
原稿と発表申込システムに入力する内容は、必ず一致させてください。

首尾一貫感覚の要素はひとまとめにできるのか？

○雲財 啓・齊藤 誠一

(神戸大学大学院人間発達環境学研究科)

キーワード：首尾一貫感覚，認知的評価，クラスター分析

Can components of Sense of Coherence be lump together?

Satoshi UNZAI and Seiichi SAITO

(Graduate School of Human Development and environment, Kobe Univ.)

Key Words: Sense of Coherence (SOC), cognitive appraisal, cluster analysis

目的

多くのストレスがある中でも健康を保持する力の一つに首尾一貫感覚 (Sense of Coherence, 以下 SOC と略) があり、これまで健康に関する様々な指標との関連が検討されてきた。SOC は把握可能感, 処理可能感, 有意味感の 3 つの要素から構成されているが, 各要素が異なった機能を持つこと (藤里・小玉, 2011), 理論上各要素の強弱は一樣ではないこと (Antonovsky, 1987 山崎・吉井訳, 2001) などが指摘されており, SOC の要素に関する研究は必ずしも十分とは言えない。そこで本研究では, SOC の 3 要素のバランスが異なることによる差について探索的に検討することを目的とし, 先行研究において関連が示されている認知的評価との関連を取り上げる。

方法

調査手続き・対象者 2011 年 7 月から 10 月の複数の講義で対象者が重複しないように質問紙を用いた調査を行った。調査内容, 倫理的配慮について説明を行い, 講義終了後に質問紙が配布し, 回答された調査用紙の提出によって調査への同意を得たとした。対象者は回答に不備があったものを除いた大学生 571 名 (男性 259 名, 女性 312 名, 平均年齢 19.84, $SD = 1.65$) であった。

調査内容 (a) Antonovsky (1987 山崎・吉井訳, 2001) により作成された SOC 質問票短縮版 (以下 SOC-13 と略) を使用した。この尺度は把握可能感, 処理可能感, 有意味感を測定する 13 項目で構成される。(b) 鈴木・坂野 (1998) により作成された認知的評価測定尺度を使用した。この尺度は設定した状況ごとにコミットメント, 影響性の評価, 脅威性の評価, コントロール可能性を測定する 8 項目で構成される。また, 設定した状況の中でストレス強度を測定するために設定した 3 つの状況の中からストレス高, ストレス低の状況を選んでもらい, 選ばれなかった状況をストレス中とした。

結果

まず, 対象者の SOC のバランスの特徴を検査するために SOC-13 の各下位尺度の標準得点を用いてクラスター分析 (グループ内平均連結法, ユークリッド平均距離) を行った結果, 解釈可能性から有意味感低群 (CL1), SOC 高群 (CL2), 把握可能感・処理可能感低群 (CL3), SOC 低群 (CL4) の 4 群が得られた。次に, 認知的評価測定尺度の下位尺度の得点を従属変数, クラスター (CL1, CL2, CL3, CL4) を被験者間要因, ストレス強度 (低, 中, 高) を被験者内要因とする混合計画分散分析を行った。その結果, クラスター, ストレスの強度の主効果がすべての従属変数において有意である一方, 交互作用はすべての従属変数において有意ではなかった。多重比較を行ったところ, コミットメントおよび影響性の評価において CL3 が CL1 より有意に得点が高い点が特筆すべき結果であった (Figure 1)。

考察

本研究の結果は, SOC の各要素の強弱は一樣ではなく, そのバランスにより認知的評価に差が出る可能性があることを示唆している。これらのことから同等の SOC であってもその性質は異なっている可能性があると考えられる。具体的には, 同様のストレスに対しても, 把握可能感が低ければそこから受ける害を大きく, 有意味感が低ければその状況に関わろうとしないと評価をすることが本研究では示されている。本研究は, こちらで設定したストレス状況に対する認知的評価の差を検討したものであるが, このような差が SOC の形成に関わっている人生経験に及ぼす影響も少なくないと考えられる。Antonovsky (1987 山崎・吉井訳, 2001) は有意味感が他の二つの要素を上昇もしくは減少させる機能を持つことを述べており, この点は SOC を上昇させる介入を検討する際にも重要な点であると思われる。したがって, SOC の要素のバランスが及ぼす影響や各要素の機能を研究していくことで, 多大なストレスの中でも健康を保持する要因が明らかになると考えられる。

引用文献

- Antonovsky, A. (1987). 山崎 喜比古・吉井 清子 (監訳) (2001). 健康の謎を解く——ストレス対処と健康保持のメカニズム—— 有信堂高文社
- 藤里 紘子・小玉 正博 (2011). 首尾一貫感覚が就職活動に伴うストレスおよび成長感に及ぼす影響 教育心理学研究, 59, 295-305.
- 鈴木 伸一・坂野 雄二 (1998). 認知的評価測定尺度 (CARS) 作成の試み ヒューマンサイエンス, 7, 113-124.

